

月影



第75号

令和四年十二月一日発行
浄土宗西山禅林寺派

常林院



無くてもともと



手に入れたいと
必死になり

手放したくないと
必死になる

欲に終わりはなく
決して
満足することはない

感謝の心がないかぎり

開宗八五〇年

法然上人の生涯

【十二】

専修念仏糾弾



興福寺奏状

比叡山の僧たちが延暦寺で集会を開き、天台座主ざに対して、「念仏停止」を訴える事件は、やがて仏教界全体の問題として広がっていきました。

一二〇五年（元久二年）奈良の興福寺の高僧、貞慶が朝廷に対して、法然上人の念仏禁止の訴えを申し入れました。この訴状は「興福寺奏状」とい

います。

この「興福寺奏状」の主な内容は、天皇の許可を得ずに新しい宗派を立てたこと。お釈迦さまや日本の神々を軽んじていること、戒律を破る僧侶が増え、国が乱れてきていることなどでした。

さらに興福寺は翌年、法然上人の弟子、行空と導西を名指して批判し、朝廷に処罰を要求しました。

それを受けて朝廷は、行空たちを配流はいりゅうするとしていましたが、のちに破門はもんという処分を下しました。

朝廷の対応

延暦寺や興福寺といった既存の仏教界からの圧力が続いたにもかかわらず、朝廷が専修念仏の弾圧にあまり力を入れていることはありませんでした。

それは、九条兼実を筆頭に貴族などの権力者の中に、法然上人の専修念仏の教えを支持している者が多かったこと、また、僧侶として名高い法然上人に対して、尊敬の念を持っていたことなどが考えられます。

苦慮する朝廷

また、朝廷は念仏を弾

圧することによって、自分たちの身の上にも、何か災わざわいがふりかかるのではないかと恐れていたという面もあるのかもしれませんが。

いずれにしても、当時、朝廷の実権を握っていた後鳥羽上皇が専修念仏に一定の理解があったので、仏教界で起こっている一連の問題が早く治まってほしいと願っていたのかもしれません。（つづく）



興福寺

仏事と

作法

葬儀式(六)



中陰(二)

中陰の間、遺骨やお供え物などは、中陰壇と呼ばれる白木の仏壇に祀ります。

白木の位牌

中陰中の位牌は、塗りの位牌ではなく白木の位牌を用います。白木の位牌を用いる理由は、「あまりに突然のことで、塗

りの位牌を用意すること
ができませんでした」と
いう意味合いから白木を
用います。

また、中陰壇も白木で
すから、位牌と同じよう
に、仏壇を用意する時間
がありませんでした、と
いう意味が込められてい
ます。

したがって、白木の位
牌は、塗りの位牌ができ
るまでの仮の位牌なので
開眼供養(魂入れ)はし
ません。満中陰(四十
九日)の法要の時に、塗
りの位牌の開眼供養をし
ますので、満中陰までに
塗りの位牌を準備してお
きます。

中陰壇の祀り方

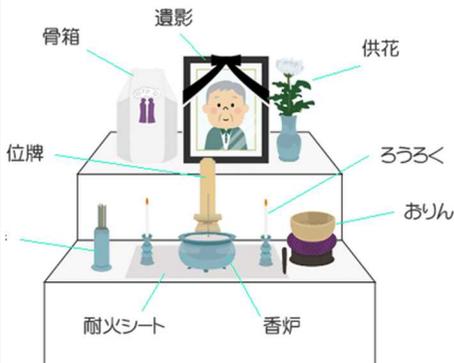
中陰中は、線香やロー
ソクを絶やしてはいけな
いと昔からいわれてきま
したが安全第一です。お
線香も長時間灯すことが
できる巻線香や、ローソ
ク型の電灯(LEDなど)
を使用することをお勧め
します。

花瓶には密を供えま
す。密の水は変えず、枯
れたら新しい密に変えま
す。

水は中陰壇の前に座る
たびに新しい水に変えま
す。中陰壇の横にやかん
と、ボウルなどの水を捨
てる器を用意しておく
と便利です。

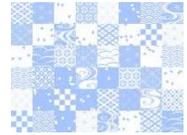
お膳は、ご家族の食事
に合わせて一緒に用意し
ます。ただし、肉魚など
は避けましょう。

中陰壇の祀り方や作法
は、宗派や地方によって
様々です。まずは菩提寺
の住職に聞きましょう。
また、その土地に昔から
伝わる作法や習わしがあ
れば、その習わしも参考
にするといいかもしれま
せん。



中陰壇の一例

仏教歳時記



揉み合^もって堂^{どう}へなだるる修正^{しゆしやうえ}会

佐々木経子

修正^{しゆしやうえ}会は、元旦から三日間、あるいは七日間

勤められ、世の中が平和であるように、また五穀

豊穰^{ほうじやう}等を祈願するために、

寺院で勤められる法要です。

当寺では毎年一月二日に

修正会を勤め、檀家の皆様

と共に今年一年の祈願をし

ています。同じ趣旨で二月

に勤められる法要のことを

修^{しゆ}二^に会^えといっています。



雑記抄 く叶う願いとく

新年を迎えると、多くの人が神社やお寺に初詣^{はつもうて}に参り願う事をします▽願うには「叶^{かな}う願う」と「叶わない願う」があります。小さな願うは叶うやすくても、奇跡を起こすような大きな願うは叶うことが難しいものです▽我が宗派の派祖、西山^{せいざん}上人^{じやうじん}がこんなことを仰^{おつしや}っています。「叶う事をば叶うと知り、叶はざる事をば叶はずと知るを、真実と言うなり」。これは「叶うことは叶う。叶わないことは叶わない。これを真実というのです」という意味です▽西山上

人は、当たり前のことを仰っているのですが、人はその時に置かれた状況によって、普段はできる正しい判断ができなくなる場合があります▽例えば、物事が上手くいかなくなったり、病気になるたり、思わぬ不幸が続くと心は弱り、何かにすがりたい気持ちになります。そして、叶わない願うでも、もしかすると叶うのではないかと錯覚し、良くない方へ向かってしまうことも起こります▽人間は弱いものです。西山上人のように、真実を見つめることができる心と、勇気を持ちたいものです。